

# 探究的な学習における問いづくり

## 塩瀬隆之先生(京都大学総合博物館教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

## (ご紹介)



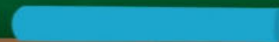
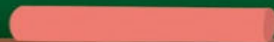
塩瀬隆之

しおせ たかゆき

京都大学・総合博物館・教授

京都大学大学院工学研究科精密工学専攻修了。博士（工学）。京都大学大学院情報学研究科助教を経て、2011年より経済産業省産業技術環境局課長補佐（技術戦略）。2013年京都大学総合博物館准教授に着任。2026年4月より現職。京都市立堀川高等学校学術顧問、京都市立西京高等学校マネジメント委員、岐阜市立草潤中学校・藍東学園設立アドバイザーほか歴任。

『ありのままの君を受け入れる学びの多様化学校』（明治図書，2026），『問いのデザイン』（学芸出版，2020）ほか。





## 安齋勇樹・塩瀬隆之『問いのデザインー創造的対話のファシリテーションー』学芸出版社（2020年）

序論 なぜ今、問いのデザインなのか

1章 問いのデザインとは何か

2章 問題を捉え直す考え方

3章 課題を定義する手順

4章 ワークショップのデザイン

5章 ファシリテーションの技法

6章 企業、地域、学校の課題を解決する

それではご覧ください

# 「問いのデザイン」から見た 探究学習における問いづくり

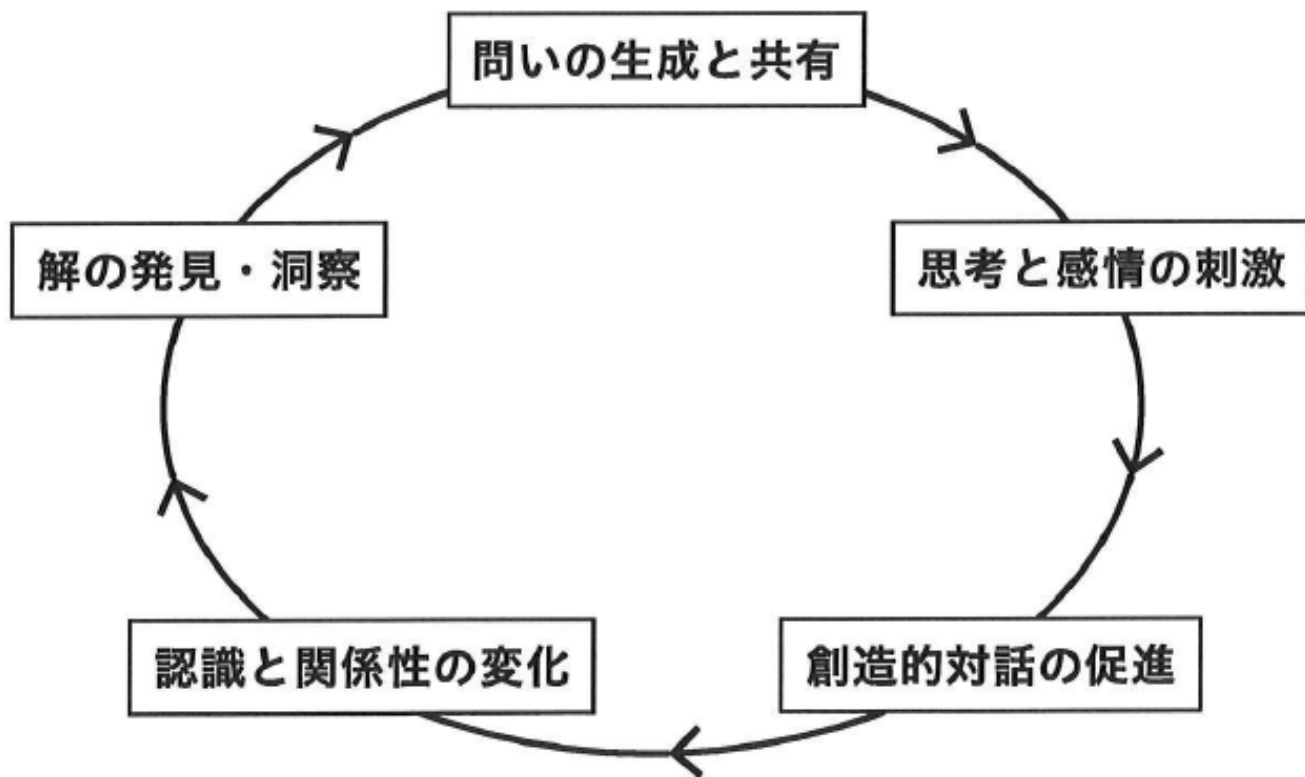
2026.4

2026.4



京都大学総合博物館 教授 塩瀬隆之

# 問いが生まれてくるまでの 段取り・関係性づくりが大切



# おなじ？がついている質問/発問と 区別して「問い」をとらえる



	問う側	問われる側	機能
質問	答えを知らない	答えを知っている	情報を引き出す トリガー
発問	答えを知っている	答えを知らない	考えさせるための トリガー
問い	答えを知らない	答えを知らない	創造的対話を促す トリガー

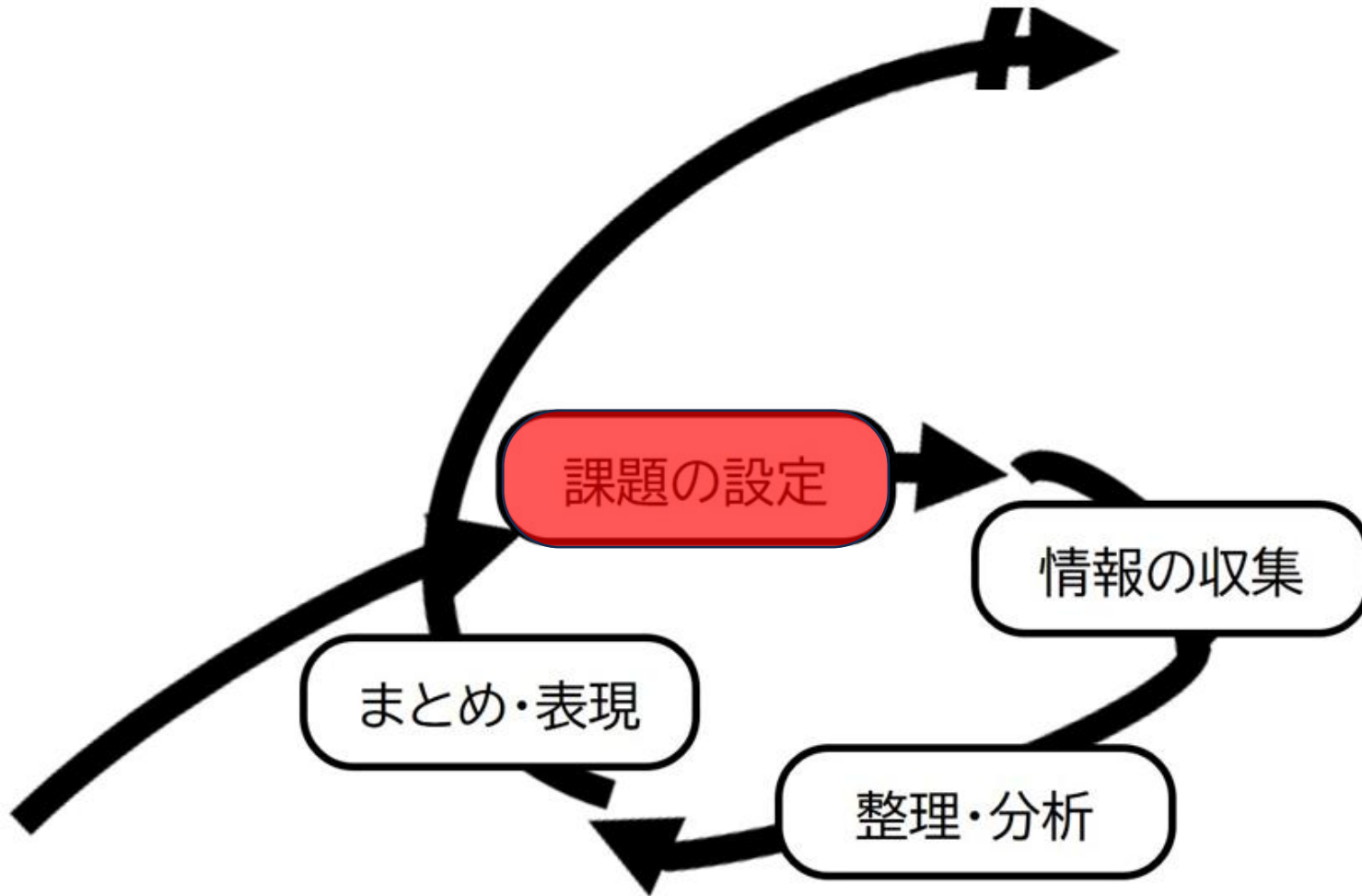
# 問いや質問に関する本も力点が少し異なる



「生徒が問いをつくれないうです」

探究学習についてたびたび耳にする声

いきなり課題の設定しすぎではないか？



# 日本の高校生にとって身近な課題と 世界の高校生にとって身近な課題は違う



# 18歳意識調査

## 「第62回 -国や社会に対する意識（6カ国調査）-」 報告書

日本財団 2024年4月3日

### 第62回18歳意識調査「国や社会に対する意識（6カ国調査）」 調査概要

**エリア** 日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インド

**調査対象** 各国の17歳～19歳男女

**回答数** 各国1,000名

※下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男	166	167	167	500
女	166	167	167	500
計	332	334	334	1,000

**実施期間** 2024年2月22日（木）～3月5日（火）

**調査手法** インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも各国全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

参考：18歳意識調査「第62回 国や社会に対する意識（6カ国調査）」

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2024/03/new\\_pr\\_20240403\\_03.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2024/03/new_pr_20240403_03.pdf)

# 日本の18歳は「貧困」問題より関心のある社会課題を多数抱えている

日本 (n=1,000)	アメリカ (n=1,000)	イギリス (n=1,000)
1位 少子化 47.6%	1位 貧困 42.1%	1位 貧困 48.7%
2位 高齢化 39.3%	2位 人種等による差別・偏見 34.5%	2位 経済成長 33.4%
3位 経済成長 25.2%	3位 気候変動・温暖化 32.6%	3位 気候変動・温暖化 28.8%
4位 自然災害 21.8%	4位 教育の質 26.6%	4位 人種等による差別・偏見 27.5%
5位 ジェンダー格差 19.3%	5位 経済成長 24.4%	5位 テロ・犯罪 25.2%
6位 教育の質 17.0%	6位 テロ・犯罪 23.0%	6位 移民の増加 23.5%
7位 貧困 15.3%	7位 環境汚染 20.5%	7位 教育の質 22.4%
8位 食糧問題（フードロス、安定確保） 12.8%	8位 食糧問題（フードロス、安定確保） 20.0%	8位 食糧問題（フードロス、安定確保） 17.8%
9位 気候変動・温暖化 12.7%	9位 移民の増加 18.8%	9位 環境汚染 17.5%
10位 環境汚染 9.6%	10位 ジェンダー格差 9.6%	10位 ジェンダー格差 11.6%

貧困にむきあってきたユヌス博士と  
高校生が膝詰め対話する前に. . .



# 30日チャレンジ

貧困とは〇〇である

1日5分言葉にし続ける30日

貧困とは  
偏見である

貧困とは

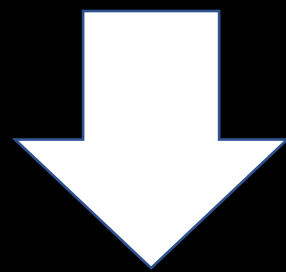
無限ループである

500  
≒ 30 × 16

壁一面を  
うめつくした  
500の問い



言葉が枯渇するまで  
徹底的に「考え抜く」

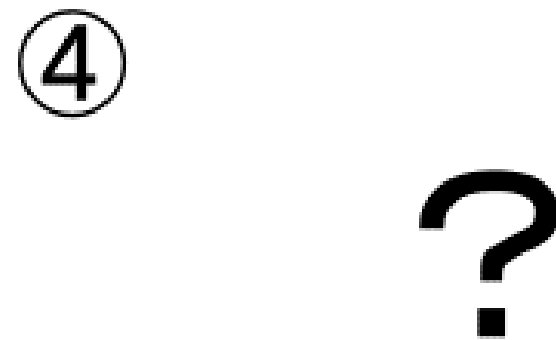
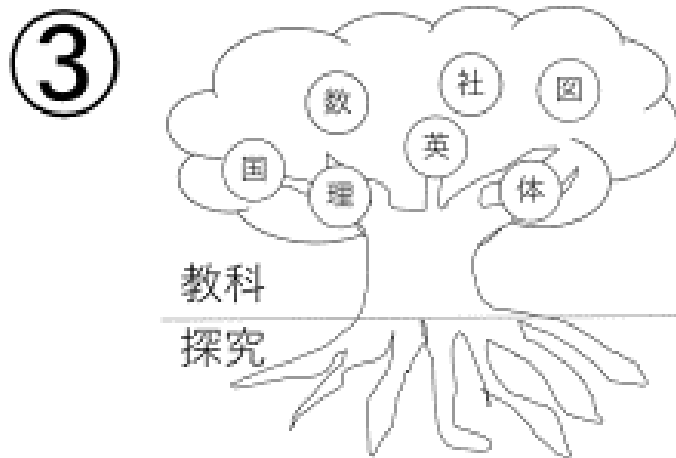
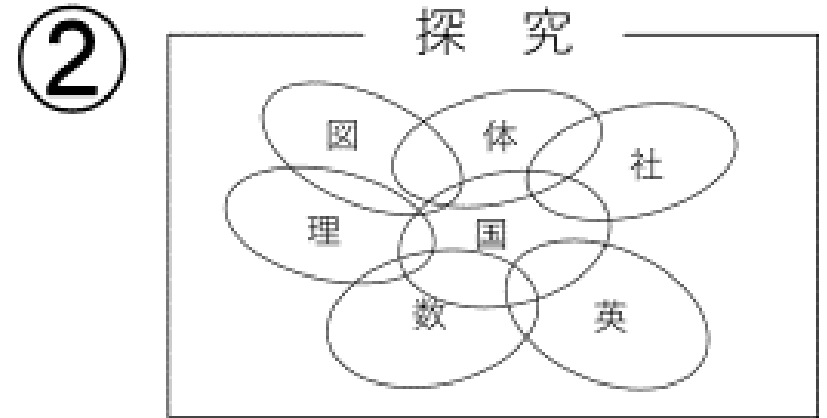
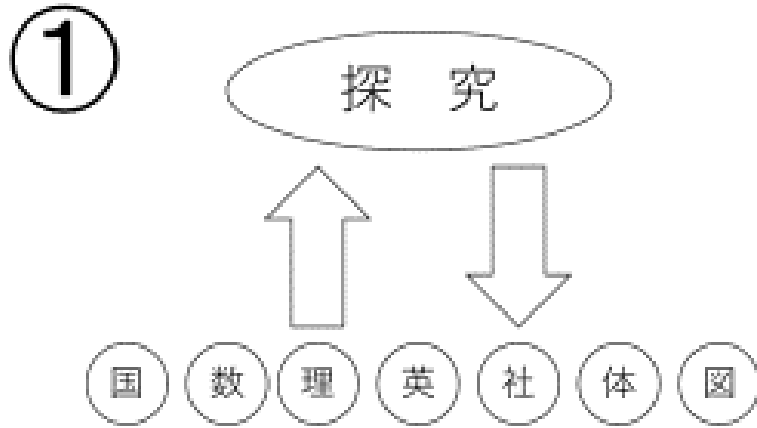


問いに向き合う時間や回数が  
圧倒的に短すぎる 探求でなく探究

「探究学習と教科学習とのつながりが  
わからない」

探究学習についてたびたび耳にする声

# まずは先生同士でイメージの共有を



# 探究学習への先生の期待を言葉に

探求→探究では...	協同(協働)学習になれば...	フリーライダーが出ないように...
日々の学習の背後にある学問の発見や感動の世界を知る	生きることを考える	仕事とは何かを考える
授業で学んだこと(内容・思考)を生かす	仲間とのチームワーク	社会とのつながり
考える力を養成する。	学力につながる。	自分で判断できる人になる
能動的な取り組み	コミュニケーション力	ディスカッション力
正しい情報かどうかを判断する能力の養成	課題(疑問)に対し、解決を図ろうとする態度の養成	他人がわかるように説明をする能力の養成
簡単に情報を収集できてしまう環境であるなかで、多くの情報を自らで取捨選択する力はずっと考えられる。	1つの課題について興味のある生徒が集まることで、普段関わりのない生徒とも交流することができる。(クラスを超えてグループを作る場合)	自分では調べない・考えたことのない領域でも、他の生徒のプレゼンテーションを聞くことで、視野が広がり、知識が増える。
生徒のアンテナの感度が上がること	生徒の思考する力が上がること	生徒の行動力が上がること
教科の枠組みを超えたトピックに触れ、自由な発想で取り組むことができる。	他者と協働することで自分とは異なる発想・視点・思考方法に触れ、そこに学びを得ることができる。	学習内容・テーマが身近で親しみやすい(=興味をもって取り組める)こと。
知的好奇心を育む	生徒の自主性	生徒の協調性
教師から教わるのではなく、自分たちで考える力を養う。	何かものごとをゼロから考えることの大変さを学ぶ。	相手を納得させるプレゼンテーションを作成する。
広い視野の育成	狭い分野を掘り下げる姿勢の育成	他者を理知的に評価する姿勢の育成
好奇心の向上	勉強と普段の生活の関係性への理解を深めること	自ら考える力の向上
自主性の向上	学びへの興味付け	自己分析
主体的に思考できるようになること	自分の興味関心を深めていける人間になること	将来研究・追及したい分野の輪郭を少しでも捉えられるようになること
自分で考える力をつけること	社会について目を向けること	自分の興味関心について考える機会になること

探究で身につく力は

- 分からないことに耐える力
- 分からないものに対する敬意
- まずはやってみようとする力
- 他の者の認知状態に立つ力

・

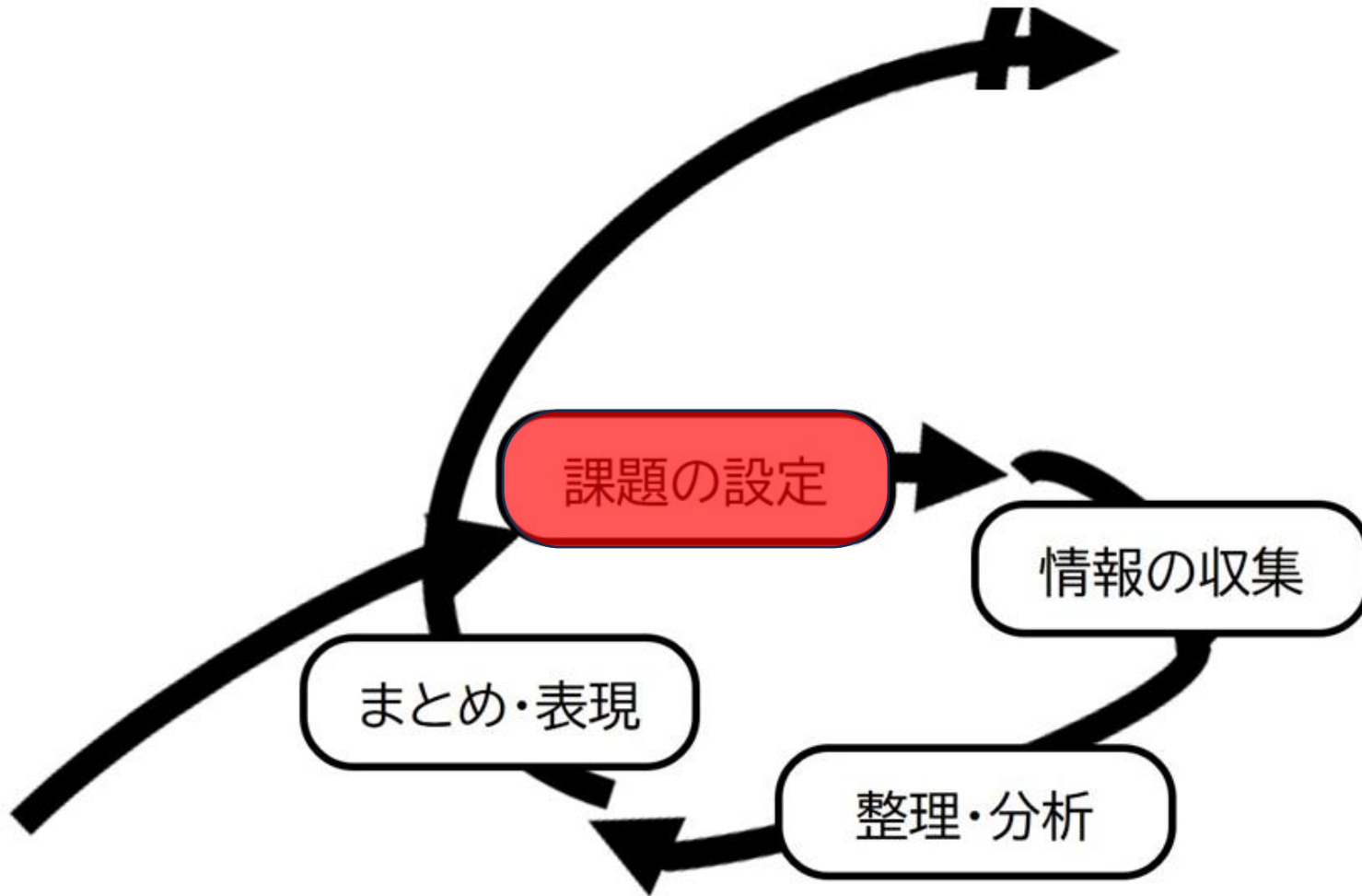
・

探究学習で視察の多い某高校の生徒が書いた「探究体験記」の自由記述より

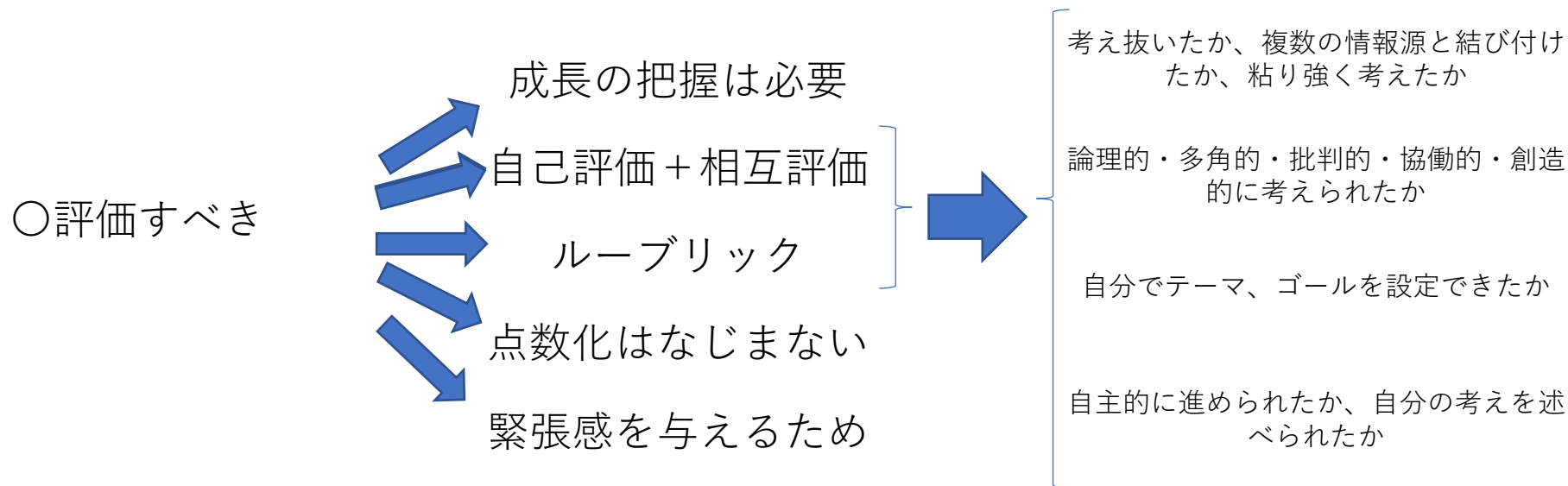
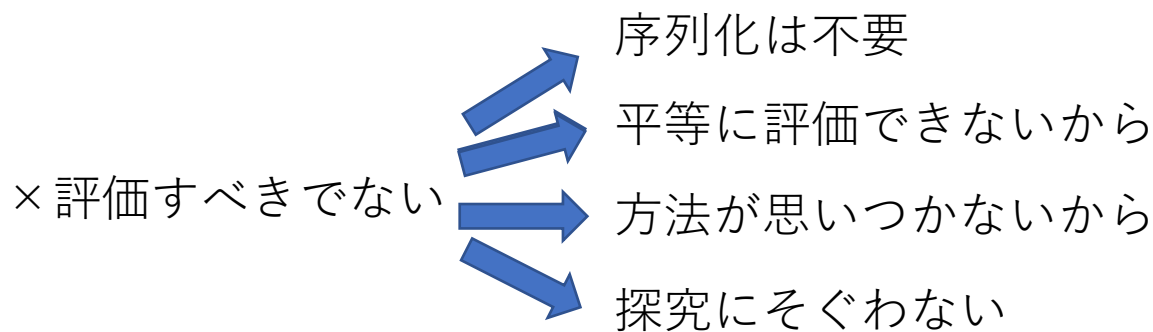
「探究学習のサイクルがうまく  
まわらない」

探究学習についてたびたび耳にする声

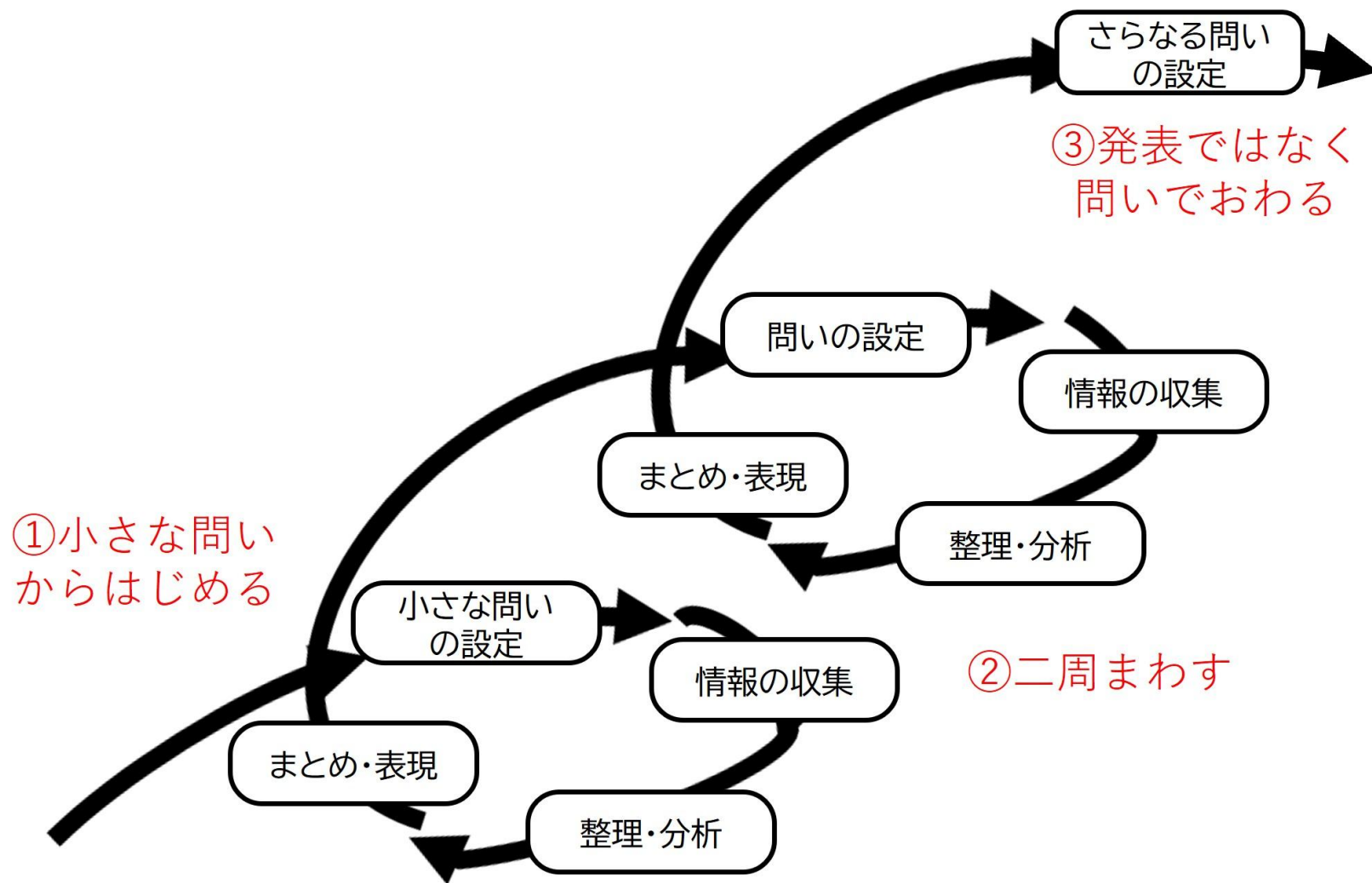
いきなり課題の設定しすぎではないか？



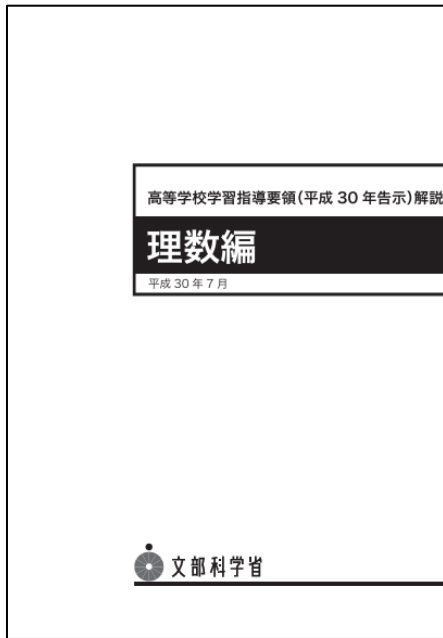
# 探究学習の「評価」についてもその意義と方法について先生同士のイメージ共有が重要



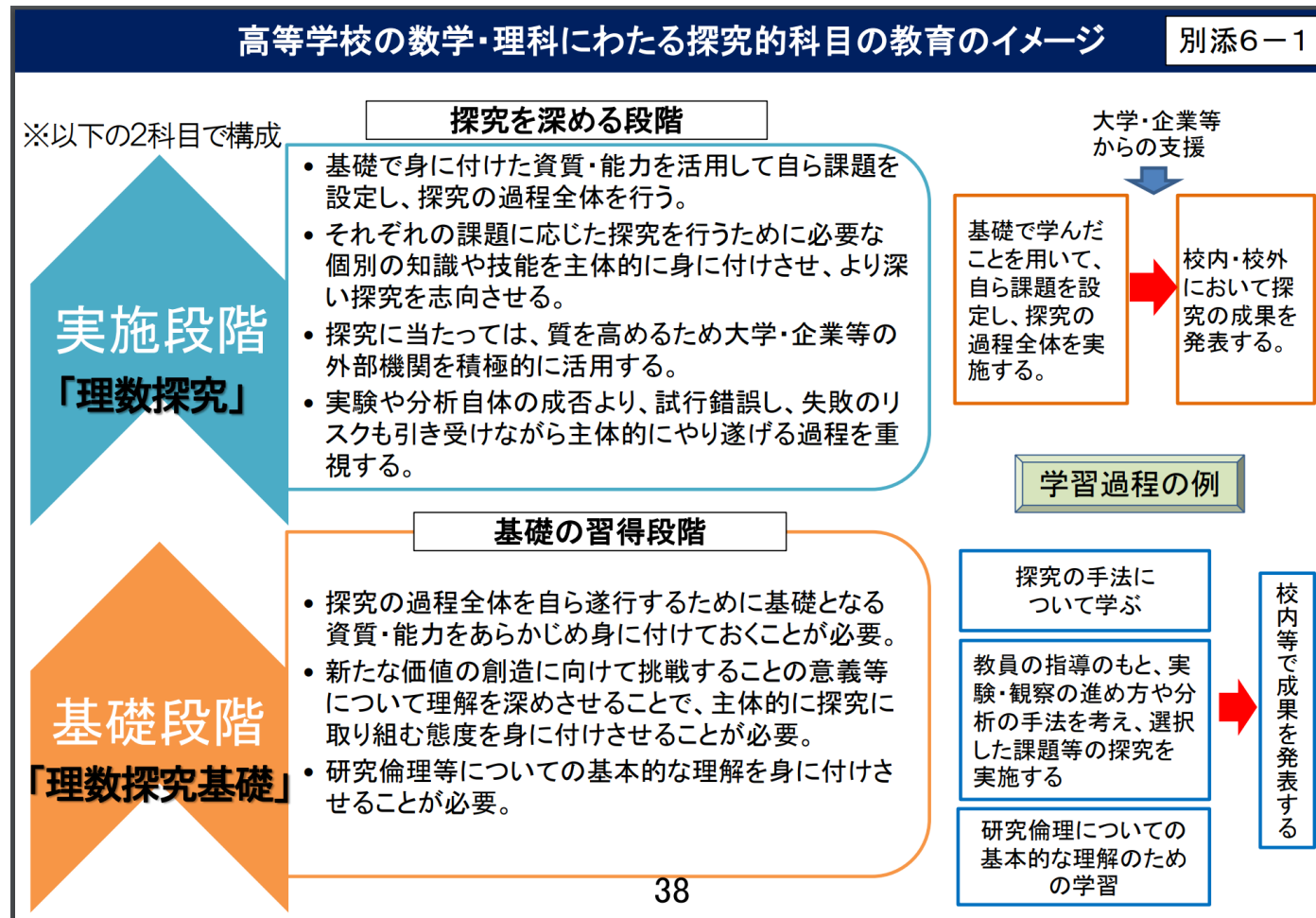
# 小さくても二周まわすのが一番のコツ



# 理数探究基礎⇒理数探究も二段構造



[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_12\\_1\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_12_1_1_2.pdf)



# 万博日本館レガシー探究ワークシート

## 教員用補助教材つき



Mission A  
発酵ハンター



教師・メンター用 補助教材  
テーマ2：問2

【問2のねらい】  
ごみは「いつ、なぜ、ごみになるのか」と問うことで、日常的に行っている「捨てる」という行為が、実は終わりではないと気づくことがねらいです。ごみについて深く考え直し、自分なりの言葉で「ごみ」を再定義できるような構成にしています。

問2 「ごみ」は、いつから「ごみ」になるのだろうか？

ごみは、はじめから「ごみ」ではありません。  
では、ごみはどのようにして「ごみ」になっているのでしょうか？

【Mission】 「ごみ」は自分のことを「ごみ」と思っているか考えてみよう

話し出す 60秒 / 80 200秒 / 400秒 単位

【Lesson 1 に取り組む際のポイント】  
たとえば、「もし捨てるとしたら、なんと言おうか」「捨でられる直前には、どんな気持ちになると思うか」「別の人や場面では役に立つのか」といった視点を加えると、想像が広がるかもしれません。自分自身の価値観にとらわれず、「ごみ」という概念そのものを見直すきっかけにつながることを期待しています。

思い終わった ノート 60秒 / 80 200秒 / 400秒 単位

小さくなった 発酵ハンター 60秒 / 80 200秒 / 400秒 単位

【Mission】 あなたにとって、どんなときに「もの」が「ごみ」になるか書き出してみよう

【Lesson 2 に取り組む際のポイント】  
ごみになるタイミングは人それぞれであり、状況によって異なるという視点を共有すると、ごみを「ごみ」としているのは自分自身という視点に気づくかもしれません。また、【問1 Lesson 2】で感じた、ごみを捨てたときの自分の気持ちや直前のレッスンでの学びをヒントに考えるのも一案です。

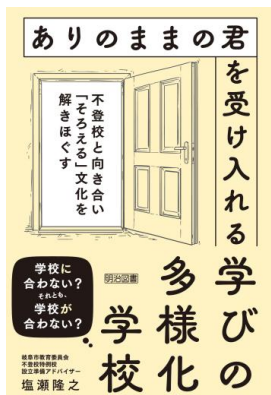
日本館レガシーワークシートと教員用補助教材  
[https://www.meti.go.jp/policy/exhibitions/japanpavilion\\_legacy.html](https://www.meti.go.jp/policy/exhibitions/japanpavilion_legacy.html)



# 探究学習や生成AI活用に関する連載等

1) 2026年4月～2027年3月 日本教育新聞  
新連載コーナー<「問い」で深める探究的な学び>  
—第1回 「どんな問いが良い問いなのか」

2) 2026年4月～2026年9月 『学校図書館』  
教育時評「未来の学校を図書館でぜんぶ先にやる」  
—第1回 「AI丸投げ読書感想文」と「100冊読書感想文」



2026.4

- 学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）に関する本
- インクルーシブデザインからみた学校づくりについて



2026.4

- 教育データ利活用に関する本
- EdTechのELSIを整理したJSTプロジェクトチームの成果集約

# 2026年～2028年に開校を予定する新たな挑戦をする義務教育学校、高専など

## 岐阜市立藍東学園



### 北舎改修工事



## 鹿児島市立桜島学校



## 滋賀県立高等専門学校

2028年4月 滋賀県野洲市に  
県内初高専が開校予定

15歳の

新たな選択肢





# 問題と課題を 区別してみる

牛乳問題と牛乳課題の解決は違う



## 問題

何かしらの目標があり、それに対して  
動機づけられているが、到達の方法や  
道筋がわからない、試みてもうまくい  
かない状況のこと

## 課題

関係者の間で「解決すべきだ」と前向  
きに合意された問題のこと

# 問題と課題の違い(ex.牛乳問題)

お母さんの問題

なんで牛乳を  
こぼすの？

牛乳であることが問題

ココであることが問題

なんでこんなところ  
でこぼすの？

もう二度と牛乳  
を飲まないで

自分の問題解決を図る

飲めなくなったことが問題

だって牛乳が飲み  
たかったんだもん

怒られていることが問題

だってここで飲みた  
かったんだもん

えーだって飲みたいもん

今後飲めないことは問題



# 牛乳問題を牛乳課題にするには こぼさずに牛乳を飲む or こぼしても被害を小さく



やっぱり牛乳は  
飲みたい

コップが練習できる  
までストローにし  
よっか

牛乳が飲めるなら  
どっちでもいいよ

おぼんも一緒に使っ  
てくれたらさらに安  
心

